

# 平成30年度 大阪府教育センター 研究フォーラム実施要項

テーマ

## 支える 育てる つなげる

1 日 時：平成30年12月26日（水）9：30～16：45

A 午前の分科会	A-1～A-4	P 午後の分科会	P-1～P-5
9：30～12：30（受付9：00～）		13：45～16：45（受付13：20～）	

2 場 所：大阪府教育センター

〒558-0011 大阪市住吉区菟田4丁目13番23号

TEL 06-6692-1882 FAX 06-6692-1898

○Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、①番出口、東北東へ約700m

○JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m

○近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

3 趣 旨

教育研究、教育実践、研修成果の発表及び研究協議を行うことによって、本府の学校教育の向上に資する。

4 参加申込（Web 申込）

- (1) 本研究フォーラムへの参加には、事前の申込み【Web 申込】が必要です。
- (2) 参加を希望する方は大阪府教育センターの Web ページ(<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/>)から申込んでください。
- (3) 申込期間は、11月9日（金）午前10時から11月30日（金）午後5時までです。
- (4) 午前と午後の分科会両方に参加することも可能です。その際には午前から一つ、午後から一つの方を申込んでください。
- (5) 各分科会とも先着順で受け付けます。各分科会の募集定員になり次第締め切りますので、ご了承ください。（ただし定員に満たない分科会は引き続き追加申込を12月7日（金）まで行います。）
- (6) 教職員の方は、申込みの際には、事前に所属長の承認を得てください。

5 参加に係る配慮の申請

- (1) 本研究フォーラムへの参加に係る配慮の申請は、事前の申込みが必要です。
- (2) 配慮を希望する方は、大阪府教育センターの Web ページ(<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/>)から「参加に係る配慮事項申請書」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールにて ([TakigamiK@mbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:TakigamiK@mbox.pref.osaka.lg.jp))まで送信してください。
- (3) 申込期間は、11月9日（金）～11月30日（金）までです。
- (4) 教職員の方は、申込みの際には、事前に所属長にご相談ください。

## 6 分科会一覧

午前（9：30～12：30）

<p>A-1 大ホール 定員 (450名)</p>	<p style="text-align: center;"><b>今求められる授業づくりの在り方</b> <b>—子どもの言語能力の育成をめざして—</b></p> <p>子どもたちの言語能力を育むための授業や新学習指導要領の具現化に資する授業の在り方について教職員の意識を高め続けていくことは大切である。授業づくりや学校の取組みの実践発表、言語能力の育成をめざした授業を実現するための具体例や大切にすることなどの講演を通して、授業づくりに生かすポイントを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実践発表 「子どもの言語能力の育成をめざした授業づくりの取組み」 泉大津市立楠小学校、枚方市立中宮中学校、和泉市立北池田小学校(平成30年度小学校授業力向上リーダー養成長期研修生)</li> <li>●講演 「今求められる授業づくりの在り方—子どもの言語能力の育成をめざして—」 水戸部 修治(京都女子大学教授)</li> </ul>
<p>A-2 視聴覚 研修室 定員 (70名)</p>	<p style="text-align: center;"><b>エンパワメントスクールの授業実践</b> <b>—「学び直し」から始まる取組み—</b></p> <p>エンパワメントスクールの特徴である「エンパワメントタイム」及び「モジュール授業」に関する実践発表、研究協議及び講演を通じて、学び直しへの取組みを普及するとともに、参加者と共に「学び直し」から学力の定着と進路実現につなげる取組みについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実践発表 「授業実践—エンパワメントタイム—」 府立布施北高等学校</li> <li>●実践発表 「授業実践—モジュール授業(国語)—」 府立岬高等学校</li> <li>●研究協議 「学び直しから始まるエンパワメントスクールの実践について」 府立西成高等学校、府立長吉高等学校、府立箕面東高等学校、府立成城高等学校 府立和泉総合高等学校</li> <li>●講演 「エンパワメントスクール・淀川清流高等学校の取組み—「学び直し」のその先へ—」 無津呂 弘之(府立北淀・淀川清流高等学校校長)</li> </ul>
<p>A-3 第3研修室 定員 (70名)</p>	<p style="text-align: center;"><b>府立学校の首席をめぐる</b> <b>—大阪の首席の現在(いま)明日(これから)を考えます！—</b></p> <p>府立学校新任首席についてのアンケート、首席によるパネルディスカッション及び学識経験者による講義を通して、学校として組織が円滑に機能するための校務の要として、今後、首席に必要とされる課題意識や組織マネジメント等について探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●講義 「首席の明日(これから)に期待すること」 和田 良彦(大阪教育大学副学長・教授)</li> <li>●パネルディスカッション 「首席の“現在(いま)明日(これから)”を考える」</li> </ul>

<p>A-4</p> <p>第11・12 研修室 定員 (100名)</p>	<p><b>同和教育・人権教育を進めるために</b>  <b>―「部落差別解消推進法」の趣旨を踏まえて―</b></p> <p>部落差別解消のための同和教育・人権教育の在り方や学校の役割、効果的な取組みの方法について認識を深める。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演 「同和教育・人権教育にいま求められるもの―『部落差別解消推進法』制定2年を越えて―」 森 実（大阪教育大学教授）</li> <li>●実践発表 「チームで進める人権教育―生徒とつくる人権学習を通じて―」 府立松原高等学校</li> <li>●実践発表 「歴史から学ぶ同和問題に関する人権学習―水平社宣言の学習から―」 富田林市立第一中学校</li> <li>●中間報告 「同和問題の現状と課題を踏まえた同和教育・人権教育の在り方について」 指導主事</li> </ul>

12:30~13:15

ランチタイムコンサート（本館1階 玄関ホール）

◆大阪府立大阪南視覚支援学校 高等部

◆泉佐野市立新池中学校

午後（13:45~16:45）

<p>P-1</p> <p>大ホール 定員 (450名)</p>	<p><b>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり</b>  <b>―支援を必要とする子どもたちの学びの質を高めるために―</b></p> <p>支援を必要とする子どもたちの学びの質を高めるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組みについて、研究報告を行う。研究協力校（知的障がい支援学校1校、肢体不自由支援学校1校）による、「授業づくりガイドブック」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の実践事例を発表する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演 「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりとは」 小田 浩伸(大阪大谷大学教授)</li> <li>●講演 「学習評価を効果的に活用した授業改善について」 閑喜 美史(梅花女子大学教授)</li> <li>●実践発表 「支援を必要とする子どもたちの学びの質を高めるために」 府立富田林支援学校、府立岸和田支援学校</li> </ul>
<p>P-2</p> <p>視聴覚 研修室 定員 (450名)</p>	<p><b>小中学校における不登校支援の在り方</b></p> <p>不登校の未然防止と自立支援の観点から、新たな不登校者を生まないように組織的な取組みを進める小学校の実践報告を行うとともに、フリースクール等との連携について、民間施設の関係者より情報提供をいただき理解を深める。その後、先生方や教育支援センターの相談員、民間施設の関係者等、様々な方々と不登校児童生徒への有効な取組みについて協議を行い、共有化を図る。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実践発表 「小学校における、不登校抑制に向けた組織的な取組み」 和泉市立伯太小学校</li> <li>●情報提供 「フリースクールにおける活動や支援について」</li> <li>●協議 「不登校児童生徒への有効な取組み～未然防止と自立支援の観点から～」</li> </ul>

<p>P-3</p> <p>第3研修室 定員 (80名)</p>	<p style="text-align: center;"><b>不登校生徒への理解と支援について</b> <b>—適切な支援を行うために、今、知っておきたいこと—</b></p> <p>「SNS等を活用した相談体制構築事業」、「不登校生徒の早期発見・早期対応につなげるために作成中の、仮想事例を使用した、分類別の見立ての仕方や支援のプランニング集」、「不登校生徒への支援モデル事業」の3点について経過報告を行う。その後、弁護士の峯本耕治先生より、スクールロイヤーの立場から、学校教育相談の現状と課題や適切な支援を行うために学校現場ができることについて御講演いただき、不登校生徒への理解と支援についての見識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●報告 「SNS等を活用した相談体制構築事業—調査・研究経過報告—」 指導主事</li> <li>●報告 「不登校生徒への理解と支援について—調査・研究経過報告及び不登校生徒支援モデル事業報告—」 指導主事</li> <li>●講演 「スクールロイヤーから見た学校教育相談の現状と課題—学校現場でできること—」 峯本 耕治(長野総合法律事務所弁護士)</li> </ul>
<p>P-4</p> <p>第11・12 研修室 定員 (100名)</p>	<p style="text-align: center;"><b>育ちを学びにつなげるために</b> <b>—新しい保育所保育指針と幼小接続—</b></p> <p>講演・実践発表・研究報告から幼小接続の現状と課題を学び、幼小接続をどのように推進していくべきか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●講演 「育ちを学びにつなげるために—新しい保育所保育指針と幼小接続について—」 馬場 耕一郎(厚生労働省子ども家庭局保育課保育専門調査官)</li> <li>●実践発表 「1年生でのスタートカリキュラムの実践」 泉大津市立上條小学校</li> <li>●研究報告 「岸和田市の幼・小教育の連携を考える委員会の活動について」 岸和田市教育委員会</li> <li>●指導助言 「育ちを学びにつなげるポイントを考える—新しい保育所保育指針と幼小接続—」 馬場 耕一郎(厚生労働省子ども家庭局保育課保育専門調査官)</li> </ul>
<p>P-5</p> <p>教育センタ ー附属 高等学校 コミュニケ ーション 教室 定員 (100名)</p>	<p style="text-align: center;"><b>高等学校における授業改善とカリキュラム・マネジメント</b> <b>—その実践と効果—</b></p> <p>高等学校において「育成すべき資質・能力」に着目した授業改善とその評価方法について、数学科、英語科での実践発表を行う。また個々の教科の授業改善の工夫を学校全体につなげる取組みについて、特色ある2校の実践発表を行い、研究協議で授業を核としたカリキュラム・マネジメントを組織的、効果的に進めるポイントについて理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実践発表 「生徒一人ひとりが躍動する授業へ—資質・能力の育成に向けた授業改善—」 大阪府教育センター附属高等学校、府立寝屋川高等学校</li> <li>●実践発表 「教員一人ひとりが躍動する学校へ—組織的な授業改善に向けたカリキュラム・マネジメント—」 府立枚方なぎさ高等学校、府立かわち野高等学校</li> <li>●講義・指導助言 「カリキュラム・マネジメントを進めるために」 赤沢 早人(奈良教育大学教授)</li> </ul>